

授業改善推進プラン < 数 学 科 >

(数 学) 科における令和6年度授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

定期的な小テストや単元ごとの確認テスト、週末課題などの定着により学力の基礎基本がはかれているように思える。

どの領域においても概ね目標値と同程度以上の正答率を残すことができた。しかし、1、年では「数と式」領域、3年では「証明」で目標値を下回り、課題が残った。

(数 学) 科における調査結果の分析

内容別結果の分析	<p>1 学年：11 内容の全てにおいて目標値を上回った。特に「単位量あたりの大きさ」「平均・場合の数」など 8 内容で目標値を 5 ポイント以上上回った。</p> <p>2 学年：7 内容の 5 内容において目標値を上回った。特に「正の数・負の数」「平面図形」が目標値を 5 ポイント以上上回った。</p> <p>3 学年：7 内容の 4 内容において目標値を上回った。特に「データの分布と傾向」が目標値を 5 ポイント以上上回った。一方、「連立方程式」「図形の性質」など 3 ポイント下回った。</p>
観点別結果の分析	<p>1 学年：すべての観点で目標値を 2 ポイント以上上回った。</p> <p>2 学年：「知識・技能」の観点のみ目標値を下回り、残りの観点は目標値を上回った。</p> <p>3 学年：すべての観点で目標値を 4 ポイント以上上回った。</p>

調査結果に基づいた授業改善のポイント

- 1 学年：「少数・分数の計算」「百分率」に課題が見られるので、1 章・の計算問題等の復習を授業やタブレットドリル等で時間をかけてより丁寧に行う。
- 2 学年：「1 次方程式」「データの分布の傾向」に課題がみられるのでプリント教材やまなびポケット等を活用し、より発展的な内容にも取り組んでいく。電子黒板を使い視覚に訴える授業も行う。
- 3 学年：「1 次関数」「確率」「データの活用」に課題がみられるのでプリント教材やまなびポケット等を活用し、より発展的な内容にも取り組んでいく。電子黒板を使い視覚に訴える授業も行う。

(数 学) 科の授業改善策

- 1, 2 学年：基礎基本の定着を基盤とした授業を展開する。苦手な領域に関しては、電子黒板を活用するなど視覚に訴えたり、問題集やまなびポケット等を用いてスパイラル学習を行ったりして、基礎の定着から発展的な問題まで取り組ませる。
- 3 学年：基礎基本の定着を基盤とした授業を展開する。発展クラスを中心に入試問題等、より発展的な内容にも取り組むことで、更なる学力向上を目指していく。苦手な領域に関しては問題集やまなびポケット等を用いてスパイラル学習をすることで問題に慣れさせる。